

地域とともにお客様とともに

Onward with our customers, with our community

歴史

- 1958 | 東海製鐵株式会社 発足

- 1961 | 愛知用水を工業用水として取水

- 1964 | 銑鋼一貫体制確立

- 1967 | 富士製鐵株式会社
名古屋製鐵所 発足

- 1970 | 新日本製鐵株式会社 発足

- 2012 | 新日鐵住金株式会社 発足

- 2019 | 日本製鐵株式会社へ商号変更

東海製鐵(株)発足当時、 従業員へ向けた訓示

各自が規律を重んじ、節度を尊び、
誠実明朗にして公正なる態度を堅持し、
もって品性の陶冶*に努められんことを
念願してやまない。



東海製鐵株式会社
初代社長
伊藤 隆吉

*陶冶(とうや):「陶器をつくる」「金属を精錬する」という
意味のほか、「人格を鍛え上げる」という意味がある。

粗鋼生産量(年間)

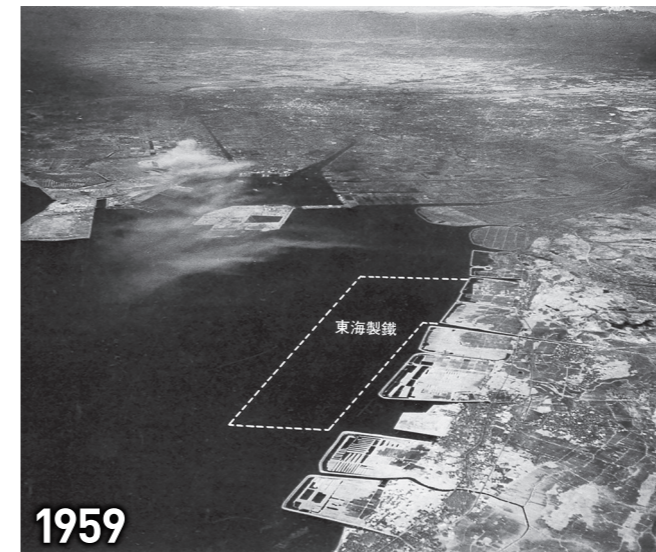
約600万t

従業員数

10,000人以上
(協力会社含む)

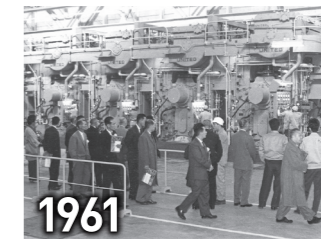
632万m²

(ナゴヤドーム131個分)



1959

工場建設用地が南部臨海工業地帯に決定



1961

冷延工場竣工式



1964

初出銑(銑鋼一貫体制確立)



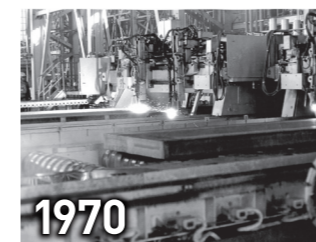
1968

厚板工場稼働(2022年2月末休止)



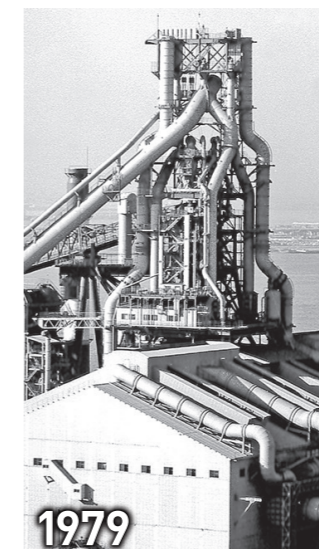
1963

連続熱延工場稼働



1970

第1連続鋳造機稼働



1979

第1高炉火入れ



1969

高炉3基体制



1973

どんぐりまき付け



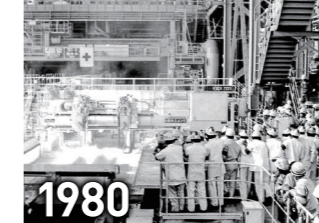
1964

製鋼工場稼働



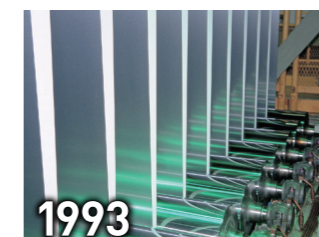
2003

東海REX発足



1980

第2連続鋳造機稼働



1993

1FLL稼働(フィルムラミネート)



2011

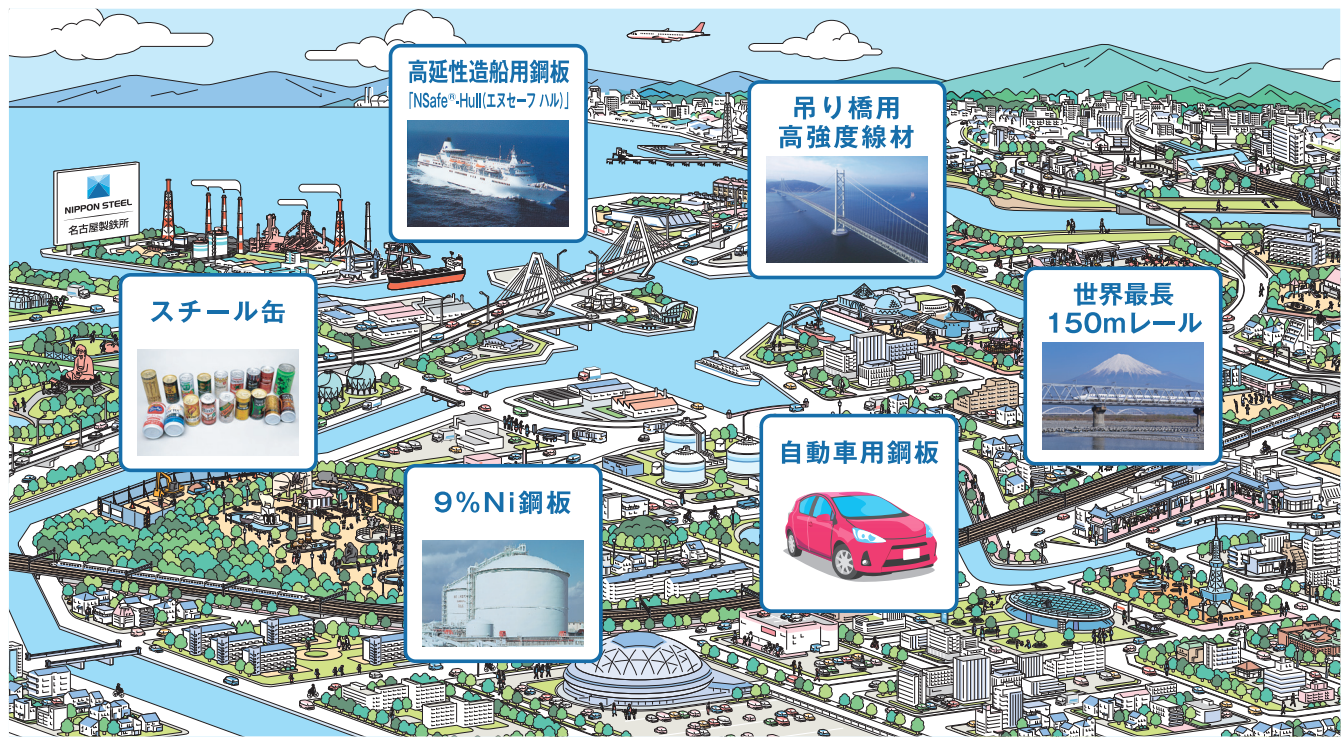
アプリケーションセンター竣工



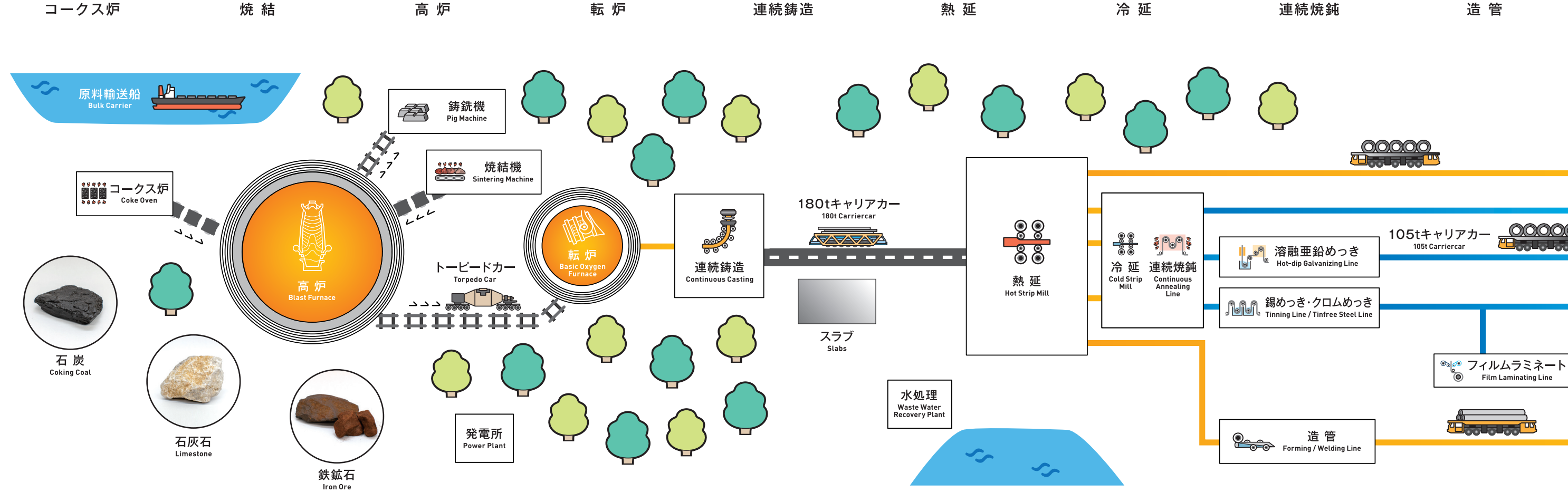
2013

5コークス炉稼働

社会を支える身近な鉄 Steel Products in Our Daily Life



製造フロー Manufacturing Process at Nagoya Works



熱延鋼板 Hot-rolled Sheet

自動車関連

冷延鋼板 Cold-rolled Sheet

自動車関連 スチール家具

亜鉛めっき鋼板 Galvanized Sheet

自動車関連 自動販売機

プリキ・キャンサーパー Trimplate / Tinfree steel

缶類

フィルムラミネート鋼板 Film laminated Sheet

缶類

電縫鋼管 ERW Pipes

自動車関連 テーバーボール

資源について
宇宙の誕生から人間社会の発展までいつの時代でも「鉄」は文明の主役です。

人体と鉄
私たちの重要な栄養素として体の中にも存在しています。

地球と鉄
地球の重量の3分の1を占める豊富な資源です。

宇宙と鉄
宇宙誕生のわずか3分後に生まれたもっとも安定した原子の1つです。

使用量について
鉄は資源が豊富で価格が安く、加工性にも優れています。

コスト
鉄は他の素材に比べて圧倒的に安価。(100円当たりの重量で比較)



強度 成形性 耐食性 塗装性 溶接性 etc...

鉄は他素材よりも優位な特性を持っています。

エコプロセス

水の再生循環 約90%
製鉄所内で使用する水は約90%再生し繰り返し利用

副生ガスのリサイクル 100%
製鉄所内で発生する副生ガスは約100%所内エネルギー源として利用

自家発電の所内発生エネルギー利用 約80%
自家発電の約80%は排熱や副生ガスを活用

発生した蒸気を熱源として活用 約80%
製鉄所内で様々な熱源となる蒸気の約80%は、燃料を使わず排熱により生産

(数値は、2019年度実績)

LCA ライフサイクルアセスメント

「つくる」から「つかいおわる」までプロダクトのライフサイクル全体で考えよう。

つくる
軽い素材と比べると鉄はつくる時の環境負荷がとて少ないんだ。

つかう
使用するとき環境負荷を低く抑えることができる軽量素材が目ざれがち。

つかいおわる
リサイクルするとする時の環境負荷がかからないのね。

自動車用高性能鋼材の開発とアプリケーション活動

自動車用部材には、当所で開発された製品が数多く採用されています。

製品紹介: 薄板 (製品例)

ポティ

高延性鋼材 (GA鋼板)

高EA型 超ハイテン (980MPa)

超ハイテン (980~1470MPa) ネットワーク鋼板 (1.5~2.0GPa)

GA超ハイテン (780~1180MPa)

ホイール

リム用ハイテン (590~780MPa)

フレーム

超ハイテン (980~1470MPa) ネットワーク鋼板 (1.5~2.0GPa)

サスペンション

高ハイテン (980~1470MPa) ネットワーク鋼板 (1.5~2.0GPa)

日本製鉄は、「使命。クルマの未来を、デザインする。」をメインコンセプトに、先進的な素材開発はもちろん、最大限に素材性能を引き出すための部品構造やその構造を具現化する加工技術の開発を進め、自動車車体の軽量化や安全性向上を実現する、カーボンニュートラル時代に向けた次世代鋼製自動車コンセプト "NSafe+AutoConcept" をご提案しています。

究極の性能を求め Ultimate performance

省エネルギーを実現し Energy saving

安全性を高め Safety

日本製鉄が考える未来のクルマ Our Vision of Future Automobiles

快適性を求め Comfortable riding

安心を支え Trust

次世代環境と調和した Ecology

未来のクルマでは、燃費向上のための軽量化のみならず、安全性や快適性、環境負荷が低いことなどが求められます。

このようなお客様ニーズの実現に向け、当所では、鋼材の開発・生産だけでなく、鋼材を使いこなす利用技術の開発にも取り組んでいます。

サステナビリティ SUSTAINABILITY

環境への負荷の少ない社会の構築に貢献しています

SDGs への貢献

社会を支える「鉄」による
SDGs の同時達成。

当社グループの取組みにより社会の持続可能な発展に貢献していくことは、2030年までに世界全体で解決すべき、国連の持続可能な開発目標 SDGs の達成にも寄与すると考えます。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

<p>2 飢餓をゼロに</p> <p>鉄鋼スラグ肥料による農業生産性の向上や農地の塩害対策</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>大気/水質/土壌リスクマネジメント、化学物質マネジメントの推進</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>技能向上を旨とした社員教育の推進</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>女性が働きやすい労働環境整備</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>限りある水資源の再生・循環利用の徹底</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>副産物の100%活用など無駄のないエネルギー利用</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>ダイバーシティ&インクルージョンの推進</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>鉄鋼スラグの路盤材や土木工事事業への活用</p>
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>独占禁止法教育などのコンプライアンス教育の徹底</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>くらしに欠かせないさまざまなエコプロダクツの提供</p>	<p>12 つくる責任つかう責任</p> <p>スラグ等の副産物再資源化の徹底</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>カーボンニュートラルビジョンによる気候変動対策の推進</p>
<p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>鉄鋼スラグを活用した藻場再生の実施</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> <p>「郷土の森づくり」による製鉄所構内の緑化推進</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>紛争鉱物の不使用確認の徹底</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> <p>環境・省エネ技術を開発途上国へ移管・普及</p>

(具体的な取り組み事例の一部)

名古屋製鉄所の地域共生

地域の人たちと響き合い、
共に発展していく努力をしております。

地域の特性を反映した環境保全活動を実践するとともに、社外団体・NPOや学生・教員などの皆様を含む地域のさまざまなステークホルダーの方々との活動を積極的に展開していきます。

住みやすい

街づくりのために

地域の特性を反映した環境保全活動を実施するとともに、地域のさまざまなステークホルダーの方々との環境リレーション活動を積極的に展開していきます。



環境保全

スポーツ・文化支援



社会との交流・
一体感醸成のために

地域のスポーツや文化支援を通じて、活気に富んだ魅力ある地域社会の実現に取り組んでいきます。

教育支援



未来を担う

子どもたちのために
子どもたちや学生、その教育に携わる教員の皆様へ、ものづくりの面白さや奥深さ、環境問題への取り組みを知っていただくべく交流を図っていきます。

名古屋製鉄所
NAGOYA WORKS

〒476-8686 愛知県東海市東海町五丁目3番地
TEL(052)603-7024 FAX(052)603-7025
<https://www.nipponsteel.com/index.html>

